ふるさとから学ぶ会／会報
Y.F.O
Y湧別町 Fふるさとの Oお宝
ヤッフォー

第31号(2018年8月20日発行)
“第7回バスの旅の思い出号”
編集・発行
ふるさとから学ぶ会
代表・梅田
090-4922-5933

「行けないところに行けて 貴重な話を伺った」

上芭露神社

峯田薄荷御殿

数日来、断続的に降り続いていた小雨は夜半には止んだものの、初夏とは思えぬ肌寒さが残る６月９日（土）、「第７回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅」が行われました。「お宝をたずねる旅」は“町に在るお宝”を“お宝の魅力を知る人”に“案内”してもらい、「みんなで、お宝の価値を共有できたら・・・」との思いから始まりました。

「地域の歴史・文化を知った」「地元の案内人の説明が大変良かった」（参加者から）お忙しい中“おすすめ案内人”を引き受け、貴重な時間を割いて準備を進め、体験・エピソードを交えて、分かり易く奥深い案内をしてくださった 上田定幸さん、井上 剛さん、林勇介さん、ありがとうございます。お宝の価値と先人への深い敬意、学びました。

「お宝をたずねる旅」のもう１つの特長は、「お宝」を前に“おすすめ人の案内”を伺い、“お宝の価値”を“体感”できることです。「神社、鳥居、狛犬など立派」「太古の世界をそぞろ歩きさせてもらいました。今この場に居る幸せを感じました」「一人では行けないところに行けて、貴重な話を伺った」（参加者から）　時折小雨がパラつく寒さの中、参加された皆様は、最後まで熱心に案内に耳をかたむけ、大きな拍手を送っていました。温かく真摯な姿に、改めて一緒に学べる喜びを感じています。

今回の「たずねる旅」も、引き受けてくださる案内人の方のご理解と教育委員会の支えがあって実施できました。ありがとうございます。取り分け、上芭露自治会の皆様には全面的なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

（梅田）

お宝をたずねる旅に参加して

宮　澤　　道（中湧別東町在住）

前日からの雨がなんとか上がり、ＴＯＭを出発したバスは上芭露へ向かいます。地元にいても訪れることのない土地へ行くのはちょっとした旅気分。

上芭露神社、ナウマンゾウ臼歯発見の地を巡り、本日のハイライト西芭露 峯田薄荷御殿に到着。細かい雨が降り出し、冷たい風が吹く中でおすすめ案内人 井上さんの説明がありました。

昭和 25 年といえば築 68 年。大きな平屋の屋根は当時は柾葺きだったのでしょうか？立派だけれど寒そうな木造家屋です。現在も住んでいらっしゃるので、内部を拝見できないのが残念ですが、外からでも往時の栄華(？)がしのばれる豪邸でした。縁の下がある家は北海道では珍しく、出身地内地の家を再現したのかと思いました。

薄荷栽培の作業手順と歴史を学び、当時の賑やかだった上芭露の市街にタイムスリップしてみたくなりました。

また一つ湧別の知らなかった一面に出会える旅でした。感謝。

（湧別町社会教育委員の会　委員長）

（お忙しい中、毎回、ご参加いただき、エールを送ってくださる宮澤委員長に「旅の感想」をお願いしました。ありがとうございます。）

へえ～、なるほど。そうなんだ！

ー「たずねる旅」当日、参加者に渡された資料よりー

① 明治 40 年、氏子 22 戸の申し合わせにより、尺柱を建て、大山神社と記して祀ったことに始まる上芭露神社。高さ６m、柱周り 160 ㎝を誇る神社入口の大鳥居と参道中ほどにすっきり立つ神明鳥居。姿・表情が全く違う２対の狛犬。きれいに剪定された境内のオンコ・・など。上芭露神社には、町の他の神社にはない趣（おもむき）があります。

② ナウマンゾウの化石は本州の野尻湖（長野県）を中心に国内約 300 か所で見つかっていますが、北海道では４か所（湧別、忠類、雨竜、栗山）でしか発見されていない。

③ 昔の学説では、北海道のナウマンゾウは 12 万年前に絶滅し、寒冷となった約７万年前以降はマンモスゾウのみが生息していたと考えられていた。しかし、湧別で発見されたナウマンゾウが約３万年前のものと判明したことで、学説が覆りました。湧別ナウマンゾウは、日本・北海道の古環境と動物の関わりを知ることが出来る貴重な資料。

④ 化石を研究する学問は「古生物学」。よく「考古学」と混同されますが、全く異なる学問分野です。「化石（恐竜）の研究者になりたい」場合は理学部。考古学を学ぶ学部に進学すると恐竜の研究はできません。

研究対象	学問	研究目的	受験の進路	小学校で習う科目
化石	古生物学	地球や生物の歴史を解き明かす	理学部等	理科
土器・石器	考古学	人類の文化や歴史を解き明かす	文学部等	社会科

表１　古生物学と考古学の違い

⑤　大正末期、部落の農家は全部が薄荷栽培で農家経済は盛り上がっていた・・・北見薄荷は北見地方の至る所で耕作されていたが、芭露薄荷は他の追従を許さぬ有名な農作物であった。
・・・薄荷景気に沸いていた頃の上芭露は、鍛冶屋、馬蹄鉄、自転車屋、桶屋、ブリキ屋・・病院、警察署・・一般商店十戸以上も在って凄い盛況であった・・・

⑥　戸袋のある縁側。化粧モルタルと白壁の玄関外周り。幅１.５間・奥行き５間の広い通り土間。エゾマツが柱の座敷。８寸柾目の杉天井。障子や襖との調和が美しい欄間・・家を守っている基礎土台は、富美焼石・・・先人の思いと暮らしが刻まれている築68年の峯田宅は、北見薄荷発祥の地・湧別にとって、大切な価値ある建築物です。

「我がまち湧別町のお宝をたずねる旅同行記」

＞柳 澤 勝 彦（錦町在住）

「お宝をたずねる旅」も７回になりました。すばらしいお宝に、又、出会いました。参加下さったみなさんに感謝申し上げます。

我が町のお宝は、なんといっても、現地を訪ね、実物を間近で拝見、実際に感動を得ることが大切なことだと思います。

この度のお宝は、三つでした。

あの薄荷の里にある上芭露神社。市街地の中心にあり、大きな鳥居をくぐり上り坂を徒歩で上がり、途中、これ又、近在には見られない二対の立派な狛犬が迎えてくれました。立派で荘厳な本殿の前で上田さんのお話を聞きました。ありがとうございます。

東芭露の奥地の「ナウマンゾウ臼歯発見の地」は、草地のため現場の沢には行けず、手前の道路から林学芸員の説明を聞きました。「エッ、こんなところにナウマンゾウがいたの？」という場所でしたが、みなさん真剣に林学芸員の説明に聞き入っていました。ありがとうございます。

西芭露の「峯田薄荷御殿」は、地域の奥、目の前にパンフレットの写真があるような、それはそれは立派な御殿でした。バスから降りるとみなさんまず驚いていましたね。一時世界にも伝わった「湧別薄荷の御殿」が西芭露地区にまだ存在していることが、なんともすばらしいと感動を伝えるお宝でした。湧別町の文化財といえるのではと思います。玄関前で井上さんのお話を聞きました。ありがとうございます。

さて、来年の“お宝”は、どこでしょう。楽しみにしております。

（ふるさとから学ぶ会 会員）

第７回お宝をたずねる旅アンケートから

＜楽しかった理由＞
・薄荷の歴史がわかった（同様回答２人）
・一人では行けないところに行けて貴重な話を伺った（２人）
・地元の案内人の説明が大変良かった（２人）
・上芭露は今まで通り過ぎるだけだったが、知らない場所多々あった（２人）
・地域の人たちの熱意（上芭露神社）が伝わった。
・太古の世界をそぞろ歩きさせてもらいました。今この場に居る幸せを感じました。
・薄荷は、子供の頃手伝ったことがあり、大変楽しかった。
・案内人の方の豊かな知識・経験。　・先人の苦労が偲ばれた。
・ナウマンゾウの軌跡（12 万年前⇒３万年前）
・自分の知らないことを興味深く観られた。
・多くの人と話せた。　・普段聞けないことがわかった。
・とにかく楽しかった、温故知新かな。　・全部。

＜新しい発見の内容＞
・昔の薄荷御殿（６人）　・薄荷御殿のオンコの柱が今でもあったこと。
・薄荷のことや歴史、詳しくわかった（３人）　・薄荷発祥の地
・上芭露の昔のにぎわい（２人）　・上芭露の歴史
・神社、鳥居、狛犬など立派　・地域の歴史、文化を知った。
・ナウマンゾウの歯　・ナウマンゾウとマンモスのせめぎあい（２人）
・ナウマンゾウの生息データ
・古い物事は、全て考古学かと思っていたが、考古学と古生物学の違いが明確に理解できた。
・湧別町は広い（２人）　・全部新しい発見

＜たずねてみたいお宝＞
・富美あたり　・旧湧網線と旧名寄線
・役員の方にお任せします　・次回も楽しみにしています

＜その他＞
・隣の席に座った方と話が弾み、いろいろと見学しながら、共感できた。
・昔の苦労話など、今では考えられない話を、孫や子どもに伝えたい。
・神社の手入れが行き届いていて、入り口から社までの一直線が、気持ちよかった。神様を大事にして日々を暮らしていると、護られていることを実感できるのでしょうね。
・上芭露自治会の皆様の地元愛が伝わった。
・寒くてお話をのんびり聞けなかったのが残念（２人）
・バスの中で説明しても良かったと思う。
・説明時間を厳守（自身のことは不要）　主催者挨拶の簡略化。
・薄荷御殿の中も少し見たかった。
・バスのＵターン時が心配だった。多くの人が乗っているので安全を確認ください。
・いつもながら、プロドライバーには脱帽した。
・ナウマンゾウのお話を聞いている時に、上空に一羽の鷲が悠々と飛んできたのにはびっくり！大きかった～。

（ご協力、ありがとうございます。大切なご意見、今後に生かします）